

平成21年度 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200052		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームはなみの家 (1F)		
所在地	千葉市花見川区大日町1386-2		
自己評価作成日	平成21年12月3日	評価結果市町村受理日	平成22年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域・ボランティアの方々に支援して頂き、入居者様・職員と一緒に裏の畑で家庭菜園を行い、収穫した季節毎の野菜を楽しみながら食している。</p> <p>・初詣、お花見・夏祭り・クリスマス・餅つきなど、季節を感じられる行事をご家族・地域の方々と一緒に楽しんでいる。</p> <p>・ご家族等、皆で協力し合い、入居者様のペースでできる事を手伝ってもらいながら、穏やかにのんびり過ごしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>『今まで見て回ったうち、ここが一番良かった』ある入居2ヶ月目の方の声である。明るく、広いだけでなく、ホームの雰囲気と安心感が気に入り決めたという。法人トップの『安心』への思いが、事業所の『ずーっと住みたい家』という理念に繋がっており、全職員はこの理念の実現に向けて取り組んでいる。法人4番目のホームなので、今までの経験を生かして、さらに利用者や職員の声を入れ、丸みのある柱、角の無い造作や職員休憩室の設置など生活空間づくりにも改善を加えている。今後は事業所として出来ることの事業計画を作成し、マニュアル、資料等を整備することによってより質の高い、効率的な運営が期待されるホームである。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年12月21日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(1階ユニット)および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ずっと住みたい家」という理念を共有し、それに向けて取り組んでいる。	一人ひとりが『おだやかに、やすらぎのある、安心できる自分の家』そんな気持ちで暮らしていけるように、全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアの方々と一緒に畑作業をする事で交流している。又、ホームでの催し物の際などは近隣の方々をお招きしている。	自治会や地元の社会福祉協議会などを通じて地域の情報はよく入ってくる。地域の敬老会からも誘いがあり、トイレが和式のため参加を見送ったが、散歩中にみかんを採らせてもらうなど、地元の人々との交流は盛んである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの催し物でお招きした際に説明をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事や現在の状況を報告し、意見を伺っている。 又、他施設での取り組みをアドバイスしてもらいサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターや介護相談員、家族などの参加を得て年5回ほど実施した。時には地元のボランティアグループの会長、長寿会会長、小中学生まで参加して運営推進会議後の交流を行うなど、気楽に参加できる雰囲気作りに努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において包括支援センターに、又月一回介護相談員に報告することで連携をとっている。	地域包括支援センターや介護相談員の他に、市の行政も参加するグループホーム連絡会に参加し、様々な情報交流を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアを徹底し、取り組んでいる。	研修に参加した職員は後日、皆に報告することを義務付けている。身体拘束のみでなく、丁寧な言葉づかい、否定しない言葉づかい、待たせる場合は理由を伝えるなど言葉づかいについても拘束に繋がらないよう確認し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で職員一人一人に徹底し、多くの目で虐待を見過ごさないよう努めている。		

グループホームはなみの家 自己評価(1階ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当される方は居ないが、今後必要に応じて活用し支援する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは慎重に説明を行い理解して頂いている。不十分の場合には納得されるまで説明を行う。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に、面会時に意見・要望があれば直接その都度伺い、改善に向けて取り組んでいる。	年2回の家族会、5回の運営推進会議には殆どの家族の参加がある。又、毎週のように家族の面会があり、入居者、家族、職員は頻繁に話す機会を持っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で意見を聞く機会を設けている。それ以外でも随時職員に意見等を聞いている。	毎月のフロア会議では職員一人ずつから意見を聞くことにしている。その内容は毎月のリーダー会議や3ヶ月毎に法人全体で行う幹部・管理者会議に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談等で意見を聞き、調整し向上心を持てるよ努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やリーダー研修等の法人内研修の実施、また、外部の研修の参加も奨励し、順番に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との研修や食事会を通じての交流、又、グループホーム連絡会へ参加している。		

グループホームはなみの家 自己評価(1階ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会や体験入居をして頂き、ご本人の不安を解消してもらってから入居して頂くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に納得の頂けるまで話を聞き、信頼関係ができるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会や体験入居を通じて現状を見極め、当ホームのご利用が難しい場合は、他のサービスを紹介している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築くことを重視し、それに向けて取り組んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の都合に合わせて出来る限り面会に来て頂き、支援に参加してもらえようとしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・手紙などで関係が途切れないよう努めている。	より多くの家族や身内の人、近隣の友達、団地の友達などとの関係の継続に努めている。かつてのテニスコートに行き、昔の仲間と歓談することもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうな入居者様は職員が間に入り、入居者様同士の関係が良くなるよう関係作りに努めている。		

グループホームはなみの家 自己評価(1階ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談して頂けるような関係作りに努め、実際に相談や支援を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングでご本人やご家族から話を聞き、カンファレンスでの検討も行っている。	日々の会話からしっかり把握していくようにしている。そのために、話をよく聞き、職員ペースにしないで、各居室で1対1で話す機会をつくるなど、話しあえる関係づくりを心がけている。家族との会話からも思いの汲みとりに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後にご本人、ご家族から話を聞き、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状を、記録や申し送り、会議等で職員全員が把握し、共有できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを通じて、より良く暮せる為に皆で話し合い、介護計画に反映させている。	日々の暮らし、会話や各種介護記録から介護計画を作成している。医療連携にもとづく往診医や看護師の意見も加えている。見直しは3ヶ月に一回であるが、月1回のカンファレンスでも入居者の状態を確認し適宜変更を加えている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、情報共有ノートを利用し、職員が情報を共有しながら活かせるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望があれば必要に応じて対応している。		

グループホームはなみの家 自己評価(1階ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の警察署・消防署と提携をしており、離施設や火災等に備えている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を優先し、納得を得られるようにしている。	本人、家族の同意を得て事業所の協力医が全入居者の定期的な往診を行っている。従来からの専門医にかかる時は家族の他に職員が付き添うこともあり受診記録をとり、往診医との連携を保っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時看護師に相談でき、又、連携をとりながら支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約医療機関がある為、病院関係者との関係作りは出来ており、入院された場合は連絡を密に取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時での説明、又その必要が出来た場合は、ご家族・訪問医と話し合い、希望に合った支援に取り組んでいる。	重度化に向けての指針は入居時に説明し同意を得ている。看取りの希望があれば応じるが、家族の希望で変更も可能である。往診医は24時間体制だが、職員の不安感をなくすため、往診医による勉強会も行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による救命救急の研修を職員全員が受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施により、避難できる方法を身につけている。	職員が落ち着いて誘導できることが重要だと考え、連絡網やマニュアルを整え、一目でわかる場所に大きな字で掲示している。消防署とも連携をとっており、夜間訓練や地域との連携の取り組みを整えてきている。	

グループホームはなみの家 自己評価(1階ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには十分注意をし、又、会議等でもそのように職員全員に徹底している。	トイレや居室等で排泄や着替えを手伝うときは必ずドアを閉めるようにするなど、言葉かけや対応でも誇りを傷つけないようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が職員に何でも話しやすい関係作りを作ることに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで入居者様を急がせることは決してせず、ご本人の希望を重視している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼夜のめりはりがつく身だしなみができるよう支援し、おしゃれがしたいという気持ちを大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様がすすんで食事の準備や片づけを行っている。	ホームでは「食べたいものを食べる」ことを大切にしている。メニューの変更にも応じ、バーベキューや月1回の外食、もちつき、さつまいも、ミカンなど季節の変化も加えている。入居者は職員とともに調理、盛り付けなどそれぞれの役割を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録、把握し、訪問医・看護師と相談しながら状況に合わせて対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ自力で行えるよう声掛けをし、できない部分は介助している。		

グループホームはなみの家 自己評価(1階ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録で把握をし、声掛けや誘導でおむつの使用を減らせるよう支援している。	全員の排泄をチェックし、おむつをはずす方向で支援している。入居当時寝たきりでおむつ使用だった人が、歩くようになり、おむつがはずれ、その後普通の下着になるなど、職員にとって励みになるケースもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問医・看護師と連携をとりながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングを優先している。入浴拒否が続く場合は、入浴したくなるような声掛けのの工夫をしている。	「毎日いつでも入浴できる」と説明し、実践している。1、2階とも入浴リフトが設置され入居者の負担を和らげている。状況によって清拭、足浴などで済ますことがあるがこの時も会話しながら楽しむことにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に合った休息をとってもらっているが、夜間に一番安眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が共有できるようになっており、変更があった時などは注意をするよう徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在の状況に合った役割をもって頂き、散歩や畑作業、折り紙、買物等一人一人に合った楽しみを楽しんで頂けるよう実施している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にその季節を楽しめるような外出を企画し、実施している。又、ご本人の希望があればご家族にも協力して頂きよう対応している。	毎日散歩に出かけている。馴染みの場所へでかけたり、漬物やあめなど、好きな買物を楽しむ支援をしている。ホームの庭周りを自主的に歩いて健康を維持している入居者もいる。月1回の外出は季節を感じられる場所にでかけることにしており、入居者全員が楽しみにしている。	

グループホームはなみの家 自己評価(1階ユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持ちたいという気持ちを大切に、一人一人の現状に応じて所持・使用を支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、状況に合わせて電話や手紙をしてもらうよう対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるようなカレンダー・飾り物・植物等の設置をしている。又、混乱のないよう張り紙の設置、時間に合わせた照明の調整を行っている。	板張りの壁や障子を配置した温もり、角のない柱やカウンターなどの安全性、ふんだんに取り込まれた光や二重サッシによる快適性など心地よい空間づくりがなされている。そこにクリスマスの飾りつけがなされ、壁や照明・梁などに入居者・関係者の作品が飾られていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、くつろげるようになっている。又、ウッドデッキのベンチは自由に使用して頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきて頂き、ご本人の好みの居室空間となるよう支援している。	各居室には約一間の押入れが備え付けてあり、一人ひとりの持ち込める量が多いのが特徴である。出窓もあり、鉢植えを育てたり、写真を飾ったりしている。入居前に趣味で作った作品や、位牌・鏡・アクセサリーなど、思い思いの品に囲まれた空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置等のバリアフリー構造により、安全を確保しつつ家庭的な雰囲気作りを行っている。		